

創業50周年記念

August 3
2026
号

株式会社サンテック 社内報



Suntech 50th Magazine

創業50周年記念特集 50年の歩み、その先へ。

— 人がつないできたサンテックの物語 —

1977年8月2日、代表「青木喬」がサンテックを創業し、沢山の方々に支えられて50周年を迎えます。

— 青木組から世界へ。その裏側を大公開！

“あの日、7人から始まった挑戦は、世界へ。
— 受け継がれる想い、未来へ続く歩み —”



All for the Family

発行：2026.8.3

第一章 創業を知る人の記憶

「あの頃のサンテック」 創業者の夫人 青木りう子さん インタビュー



創業から50年。今では国内外に拠点を構え、多くのお客様に支えられているサンテック。
その歩みは、決して恵まれた環境から始まったものではありませんでした。

創業当時の社名は「青木組」。

工場は借りた建物で、設備も十分とは言えない環境でした。

創業者のご家族である青木りう子さんは、当時を振り返り、こう語ります。



「あの頃は、部署なんてありませんでした。

図面を描いて、材料を手配して、加工して、溶接して、出荷まで、
一人ひとりが何でもやっていました。本当に"何でも屋"でしたね。」

当時の主な仕事は、三和鉄工（三和テスコ）での船舶用エンジンベッドの製作。

野田産業の工場を借りながら、タンクや建築関連製品なども手掛け、限られた設備の中で、
一つひとつの仕事に全力で向き合っていました。

納期が迫れば、夜通し作業をすることも珍しくありませんでした。



今日中に終わらせなければ、お客様の信頼を失ってしまう。

そんな強い責任感が、一人ひとりを支え、

会社を前へと進めていったのです。

また、オイルショック後の厳しい時代、多くの技術者が職を失う中、創業者は自ら声を掛け、
仲間を迎え入れました。

技術を持った人を何とか助けたい。

そんな想いで集まった仲間たちとともに、少人数だからこそ力を合わせ、どんな仕事にも真摯に
向き合い続けました。

その誠実な仕事ぶりは少しずつお客様からの信頼へとつながり、やがて大型設備や特殊案件など、
より大きな仕事へと発展していきます。

青木りう子さんが最後に話された言葉が、とても印象的でした。



「人とのご縁が、会社をここまで大きくした」

座談会では、この言葉が何度も語られました。

人とのご縁を大切にし、一つひとつの仕事を誠実に積み重ねてきたこと。
その積み重ねこそが、今日のサンテックを築き上げた原点なのです。



一つひとつの仕事を、誠実に、丁寧に。

創業当時から受け継がれてきたこの想いは、50年経った今もなお、サンテックのものづくりを
支える揺るぎない土台となっています。



家族が見てきた、創業者の背中

「主人は本当によく働く人でした。」

朝早く家を出て、夜遅く帰宅する毎日。家族と過ごす時間は決して多くはありませんでした。

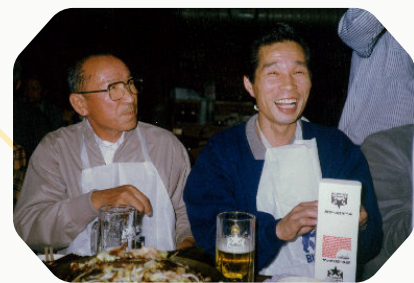
それでも、その背中からは、家族を守り、社員を守り、会社を守ろうとする強い責任感
が伝わってきたと、ご家族は振り返ります。

工場では厳しい経営者。

一方で、家では家族を大切にする優しい父親。

その二つの顔を誰よりも近くで見続けてきたご家族だからこそ語れる思い出が、
座談会では数多く語られました。

そして、何度も口にされた言葉があります。



ここまで来られたのは、社員さん、お客様、 支えてくださった皆さんのおかげ。

この言葉には、創業以来変わることのない創業者の想いが込められています。

技術や設備だけで会社が成長したのではありません。

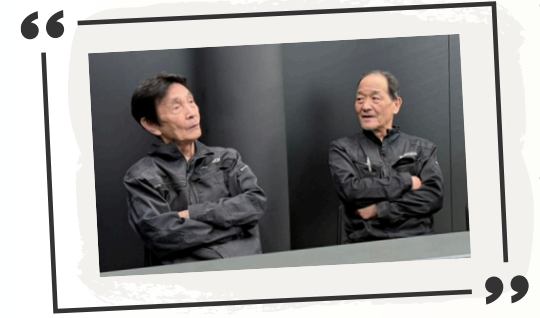
人との出会いに感謝し、ご縁を大切にし、一つひとつの信頼を積み重ねてきたからこそ、
今日のサンテックがあります。

50年という歩みの中で、変わることなく受け継がれてきたもの。

それは、ものづくりへの誠実な姿勢と、

「人とのつながり」を何よりも大切にする心でした。





創業を知る6人が みんなに伝えたいこと



昔から現在も
勤務している
6名へのインタビュー

サンテックは今、国内外へ事業を展開し、多くのお客様から信頼をいただく企業へと成長しました。
しかし、その歩みは、社員わずか7名でスタートした小さな「青木組」から始まりました。
今回は、創業当時を知るベテラン社員の皆さんにお集まりいただき、当時のエピソードや会社の歩み、
そして受け継がれてきた想いについて語っていただきました。



平成初期、社名は朝日産業からサンテックへ。

本社・工場が完成すると、それまで下請け中心だった仕事から、三菱重工など大手企業との直接取引へと大きく舵を切ります。
発酵槽、クッカー、センターシャフトなど、大型設備の製作が始まり、会社は大きく成長していきました。
「自分たちで作った製品が、日本中、そして世界で使われている。」
その誇りが、社員一人ひとりの原動力となっていました。

当時の現場には、多くの"職人"がいました。

中でも、参加者全員が名前を挙げたのが、OBの沖野さんです。
クッカーや発酵槽の製作を長年担当し、高い技術力と責任感で現場を支え続けました。
若手社員は夜遅くまで一緒に作業しながら技術を学び、「沖野さんの背中を見て育った」と振り返ります。
サンテックの技術は、図面だけではなく、人から人へ受け継がれてきたことを改めて感じさせられました。



先代社長は仕事に対して非常に厳しい人でした。

工数管理にも妥協はなく、予定より時間がかかれば
厳しく指導されることもありました。

「会社を潰す気か。」

そんな言葉に身が引き締まったという思い出を語る一方で、
病気になった社員を長期間支えたり、社員旅行や焼肉会を企画したりと、
誰よりも社員を大切にする一面もありました。

厳しさと温かさ。

その両方があったからこそ、多くの社員が会社を支え続けることができたのです。
世界へ広がるものづくり
サンテックの挑戦は国内だけにとどまりませんでした。
イラクでの石油関連設備工事をはじめ、アルジェリア、シンガポール、北海道、奄美大島など、国内外の
さまざまな現場へ足を運び、技術を届けてきました。

砂漠を何時間も車で移動した海外出張など、今では想像もつかないような経験も、当時の社員にとっては
日常の一部でした。

「仕事があるなら、どこへでも行く。」
そんなチャレンジ精神が、サンテックの成長を支えてきました。

50年を振り返って

座談会の最後に、「もう一度戻れるとしたら、いつに戻りたいですか？」という質問を投げかけると、
多くの方が笑顔でこう答えました。

「20～30年前かな。あの頃は本当に忙しかった。
でも、毎日が楽しかった。」

苦労も、失敗も、喜びも、すべてが今のサンテックにつながっています。
50年という歴史は、会社だけがつくったものではありません。

そこには、一人ひとりの挑戦と努力、そして人とのつながりが積み重なっています。
これからもその想いを受け継ぎながら、サンテックは次の50年へ歩み続けます。



右：喬社長



永井さん：イラク出張



パタヤビーチ（タイ）にて

All for the Family

Message

青木大空専務

未来へつなぐ

「そして次の50年へ。」



「想いを受け継ぎ、未来を描く。」未来を担う専務からのメッセージ

50周年という節目を迎えましたが、私にとってこれはゴールではなく、新たなスタートだと感じています。1977年にわずか7人で始まったサンテックは、多くの方々とのご縁に支えられながら、ここまで歩んでくることができました。その歩みの中で受け継がれてきた想いや価値観を大切にしながら、これから先の50年をどのようにつくっていくか。それが私たちに与えられた**大切な使命**だと思っています。

「人を大切にする」——変わらない原点

働いてくれる人がいるからこそ「会社」は成り立ちます。

世の中にこれだけ多くの会社がある中で、この会社を選び入社してくれた事には何かの縁があるのだと思います。

だからこそ、一緒に働く仲間の幸せを第一に考え、判断し、行動することが経営の基本だと考えています。

そのご縁に感謝し、お互いを思いやりながら働くこと。

この想いは、これから先も変わることなく受け継いでいきたいと思っています。

全力で向き合う仕事が、信頼をつくる

創業者から受け継いだ教えの一つに、「手を抜かず、後悔のない仕事をする」という言葉があります。

客先や同僚が一丸となり、一つの製品を真剣に作り上げます。困難があろうとも、手を抜く訳にはいきません。

苦勞する仕事であっても最後まで全力を尽くし、「やってよかった」と思える仕事を積み重ねること。

その積み重ねがお客様からの信頼につながり、今のサンテックを支えているのだと思います。



左：大空専務1歳 右：大海社長5歳

50年の歩みは、多くの人への感謝でできている

私自身、何も分からない状態でサンテックに入社しました。

そんな私に、仕事のやり方だけでなく、人としての在り方まで教えてくださった先輩方がいました。

今の私があるのも、今のサンテックがあるのも、多くの社員、協力会社の皆様、

お客様、そして会社を支えてくださったすべての方々のおかげです。

50周年という節目は、会社の歴史を振り返るだけではなく、

これまで支えてくださった皆様へ感謝の気持ちを伝える節目でもあると思っています。

目指すのは、若者が輝ける会社

これからのサンテックで私が一番実現したいことは、

---若い人たちが仕事にやりがいを感じ、生き生きと活躍できる会社にすることです。

もちろん会社として成長していくことは大切ですが、それ以上に、一人ひとりが仕事を通して成長し、仕事を生きがいと感じ、人として成長でき幸せを感じる環境をつくりたいと考えています。

ものづくりを通じて社会に貢献するとともに、社員一人ひとりが幸せを感じられる会社であり続けたい。

それが**私の願い**です。

私が求める人は、とてもシンプルです。

能力や経験以上に、**一緒に働く仲間のことを思いやれる人**です。



1日24時間のうち、寝ている時間は1/3だとして、残りの起きている時間の半分は働いている時間です。

ある意味、家族より長い時間をともにしています。だからこそ、家族のように「相手がどう感じるか」を考え、発言ができる人、自分が逆の立場ならどう感じるかを想像して行動ができる人。

そのような仲間が集まる職場を目指すとともに、自分自身がそうでありたいと考えます。

なぜなら、私自身がそういう人達と一緒に働きたいからです。

そんな思いやりの輪が広がることで、サンテックらしい温かい職場が築かれていくと信じています。

【小さな気遣いを大切に】

社内に用意しているお菓子やコーヒーも、「少しでも気持ちよく働いてほしい」という思いから始めたものです。

季節やイベントに合わせて内容を変えたり、特別なことはありませんが、そんな小さな気遣いが、働きやすい職場づくりにつながると考えています。

社員の皆さんが笑顔で仕事に向き合える環境を、これからも大切にしていきたいと思います。



そして次の50年へ

これまでの50年は、本当に多くの方々のご縁に支えられてきました。

だからこそ、これからはそのご恩に少しでも恩返しをしていきたいと思っています。

生活インフラを支えるものづくりを通じて社会に貢献し、失敗を恐れず挑戦し続ける企業でありたい。

そして、社員、お客様、協力会社の皆様とのご縁をこれからも大切に育みながら、

50周年を新たな出発点とし、60年、70年、そして100周年へ向けて歩み続けたいと考えています。

人とのご縁に感謝し、そのご縁を未来へつないでいく。

それが、サンテックの次の50年、そして100周年へと続く道だと信じています。

“
編集後記
”



社内報作成に携わって

総務部 / 麻植・西原

今回の記念誌の制作を通して、改めて「会社をつくるのは人」なのだと実感しました。インタビューでは、創業当時の苦勞や挑戦だけでなく、人とのご縁への感謝や仲間を思いやる気持ちが数多く語られました。サンテックが50周年という節目を迎えられたのは、一人ではなく、これまで関わってくださった数え切れないほどの皆様と支えがあったからこそだと感じています。この記念誌が、サンテックの歴史を振り返るだけでなく、人とのご縁の大切さに改めて気づき、次の50年へ想いをつないでいくきっかけとなれば幸いです。

Next

もっと知りたいサンテック

第2号発行：2026年12月予定



創業当時を知る元社員のお二人にインタビュー



協力会社様が語るサンテックの魅力



大海社長に聞く
NEXT STAGE ～次の50年へ～

Company History



- 1977年 8月：朝日産業創業【青木喬】
- 1991年 6月：株式会社サンテック設立
- 2009年 12月：ステンレス工場開設
- 2013年 8月：【青木大海】代表取締役社長就任
- 2014年 6月：ISO9001：2008取得



- 9月：東京営業所開設（汐留）
- 2015年 11月：外国人技能実習生受け入れスタート
- 2016年 7月：創業40周年 記念祝賀会開催
- 2017年 3月：株式会社 MOOZ & COMPANY 設立
- 6月：東京営業所移転（八丁堀）
- 9月：MOOZ SERVICE Co.,LTD. 設立
- 9月：神戸営業所開設



- 2018年 3月：MOOZ & COMPANY MYANMAR LTD. 設立（ミャンマー）
- 6月：ISO9001：2015取得
- 8月：JICA ABEイニシアティブ留学生受け入れスタート



- 2019年 7月：SUNTECH CHINA Co.,LTD. 設立（中国）
- 2021年 3月：本社移転



- 9月：株式会社リソシア設立
- 2022年 4月：SUNTECH LABO竣工



- 11月：神戸営業所から大阪営業所へ移転（曾根崎新地）
- 2024年 6月：東京営業所移転（丸の内）
- 7月：SUNTECH PATANA Co.,LTD 設立（タイ）



- 2025年 6月：大阪営業所移転（御堂筋）
- 2026年 7月：東京営業所移転（日本橋）
- 大阪営業所移転（梅田）

